



# 武蔵大学

## 3号館

竣工：1923(大正12)年  
 構造：鉄筋コンクリート造3階建て  
 設計：佐藤功一  
 施工：清水組

西武池袋線・江古田駅を降りて西に向かうと、うっそうと生い茂る木々が見えてくる。樹齢200年を越えるケヤキをはじめ多くの樹木が立ち並び森のようなその場所は、武蔵大学の江古田キャンパス。現在は東京都中野区のみが存在する「江古田」という地名は、大学のある練馬区にはないが、かつてそう呼ばれ、また同名の駅があることから周辺一帯を今でも江古田と呼ぶ人は多いという。

今回紹介するのは、そのキャンパス内にある3号館と大講堂。現在も使用されている2つの建物が建てられたのは80年以上前。重厚な雰囲気は失われていない。

### 創立者は根津嘉一郎

武蔵大学の前身・旧制武蔵高等学校は、日本で最初の旧制七年制高等学校として1922(大正11)年に設立された。創立者は実業家の初代根津嘉一郎。根津は雨宮敬次郎や若尾逸平らと共に甲州財閥を形

みであった。その後、1969(昭和44)年には人文学部、1998(平成10)年には社会学部を増設し、現在は3学部体制となっている。

### 3号館の外壁はモルタル仕上げ

「3号館」と呼ばれている校舎の竣工は1923(大正12)年と構内では最も古い。最初は本校舎として建てられ、1・2階で中高、3階で大学の授業が行われた。その後、大学のための校舎として1号館と2号館が建てられ、1968(昭和43)年に本校舎も大学専用の校舎となった。3号館と名付けられたのはこのためである。

設計は早稲田大学大隈講堂などを手がけたことで知られる佐藤功一。左右対称の外観で、時計が備え付けられた中心が高く、玄関ポーチが設けられている。その後設計する日比谷公会堂や津田塾大学にも通じるものがあり、ずっしりと威厳のある佇まいとなっている。現在はコの字型をしているが、当初は正面のみ建てられ、南に延びる両翼は2年後の1925(大正14)年に増築されたものだという。

建物落成の約5ヵ月後には関東大震災が発生する。だが、鉄筋コンクリート造の建物は1階柱部分に亀裂が見られた以外は目立った被



一部内壁は白漆喰仕上げ。階段の手摺りは当時のものを今も使用している。

害はなかったという。旧帝国ホテルにも使用されたカーン・バーという鉄筋を採用し、強固に作り上げたためだと言われる。震災後は更なる耐震補強も行われ、近年の耐震調査でも他の校舎に比べて地震に強い構造であることが証明されたという。

外壁はモルタル仕上げ。落ち着いたクリーム色で、周囲の木々とも調和している。内壁の一部は、外壁とは異なり鮮やかな白漆喰で仕上げられている。また、大正期に建てられたためか廊下は幅がやや狭く天井が高い設計になっているのも特徴である。内部は時代と共に改修・補修を行っているが、階段部分の手摺りには竣工当時の木材が現在も使用されており、趣ある空間を作り出している。

### レンガタイルが張られた大講堂

3号館より西に向かうとレンガ造りの大講堂が見えてくる。完成は1928(昭和3)年。設計は3号館と同じく佐藤功一である。

構造は鉄筋コンクリート造2階建てで、外壁に使われているレンガタイルは竣工当時のものである。脇に立つ10号館にもレンガタイルが張られているが、2年前に建てられたこの校舎とは色合いが大き



## 大講堂

竣工：1928(昭和3)年  
構造：鉄筋コンクリート造2階建て  
設計：佐藤功一  
施工：清水組

く異なり、良いコントラストを生んでいる。

中にある講堂は2階席を設けた広い作りになっている。一部内壁のレンガタイルと木組みの床、照明器具などはかつてのものを現在も使用している。内装にあまり手が加えられていないこともあって、完成時の雰囲気はまだ保っているように思える。また、やや丸みを帯びた天井、途中に扉が備え付けてある階段など今ではあまり見られない珍しい設計がそのまま残

されている。

大講堂の傍にある10号館は打ち放しコンクリートの近代的な建築物。大講堂と同じくレンガタイルを張り付けてあるため、2つの建物は馴染んでいる。これがまったく佇まいの異なる建物であれば、同じようには思わなかっただろう。

江古田キャンパスは再開発する際、そのマスタープランを設計した内田祥哉氏(東京大学名誉教授)が3号館と大講堂は手を加えずに残し、それらを活かした計画案を考案したという。今の構内を見渡すと、ただ保存されているだけでなく新旧の建物が上手く調和しているように感じる。建物の保存は確かに重要だが、ただ残すだけでは意味がない。木々の中にある校舎を見て、改めてそう思った。

(取材/ U)

#### アクセス

西武池袋線「江古田駅」より徒歩6分、  
地下鉄大江戸線「新江古田駅」より徒歩7分、  
地下鉄副都心線・有楽町線「新桜台駅」より徒歩5分  
所在地：東京都練馬区豊玉上1-26-1  
問合せ：☎03-5984-3713(企画・広報課)



2階席より舞台を臨む。広く作られた空間がよくわかる。中央シャンデリアは竣工当時のもの。